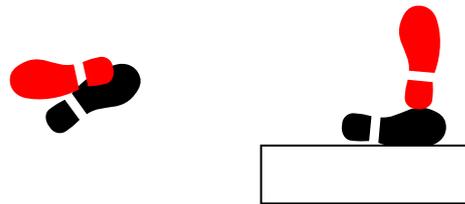


投手の1塁への牽制球

2025/05/03

中学2年生の試合でのことである。試合中、右投手が自由な左足を1塁方向へ大きく引いた状態（黒色）でセットポジションをとっていた。この状態から軸足を投手板の前方に移動し一連の動作で自由な足を踏み出したようにして（赤色）、1塁に牽制球を投げた（下図を参照）。しかし、自由な足は元の位置に着地した状態で、踏み出してはならず、踏みかえた状態であったがボークをとらないで、3アウトチェンジになったとき、投手と監督を呼んで踏み出しがないので、ボークであることを指摘した。そして、修正しようとするばまずまずストライクが入らなくなるだろうと推測し、今回はボークとしないで試合を続行するが直すようにと忠告をしておいた。セットポジションで自由な足をこのように極端な位置に置く投手は珍しい。

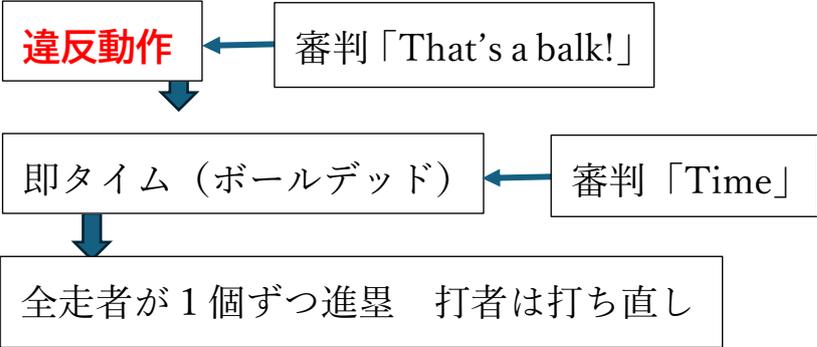


5月の研修会

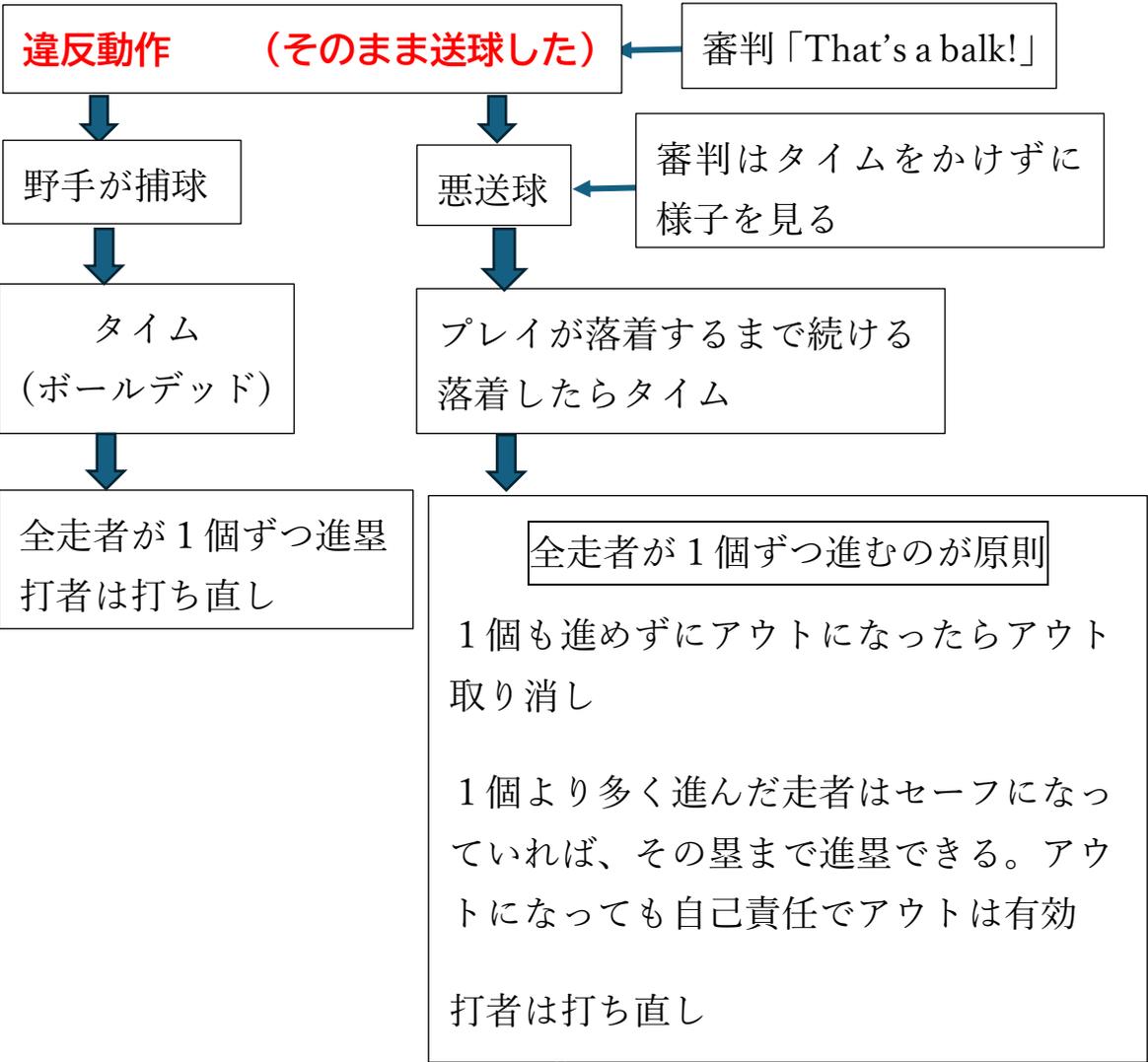
2025/05/25

今回はボークについて学習したが、現場でボークを的確に処理できるようと以下の①～④のパターンにまとめてみたので参考にしてほしい。

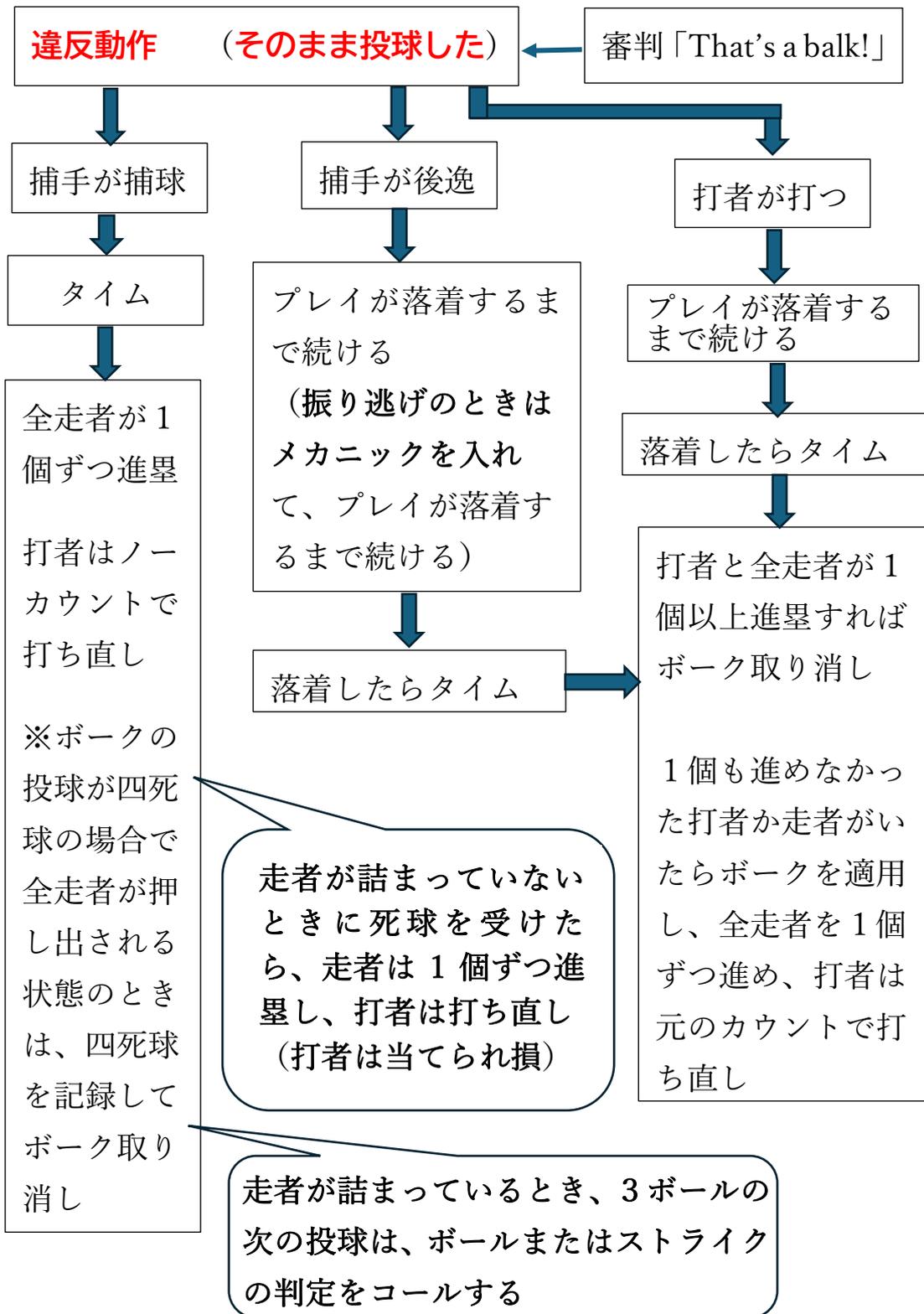
① ボークをしたが送球も投球もしていない場合



② ボークをして、そのまま送球した場合



③ ボークをして、そのまま投球した場合



④投球を**投げ損ねた**場合

投球しようとして**投げ損ねた**

ボークをコールせず、ボールがファウルラインを越えるかどうかを確認

越えた場合は投球となる

プレイをそのまま流す

ファウルラインを越えなかった場合

試合を止める

審判「Time」
「That's a balk!」

ボールが落ちた時点まで試合を戻して、その時点で占有していた塁から1つずつ各走者を進塁させる

※ 6.02b 反則投球【原注】

投球動作中に、投手の手からとび出したボールがファウルラインを越えたときだけボールと宣告されるが、その他の場合は、投球とみなされない。塁に走者がいれば、ボールが投手の手から落ちたときにただちにボークとなる。

研修中に以下のような質問があったので、紹介をしておく。
投げ損ねたボールがファウルラインを越えて投球となった後、捕手ではなくて野手が投球を捕球したらどうなるのだろうかというものだった。多分、まだ、前例がないと思われ、実際に起きた場合新たに処置が議論されて規則書に【原注】などで補足されることになるだろう。しかし、本球場ではない広場の様なスペースで行うことも多い我々には、このような出来事に遭遇する可能性はあるかもしれ

ない。似た様なルールでは、6.01gがある。「三塁走者が、スクイズプレイまたは盗塁によって得点しようと試みた場合、捕手または**その他の野手**がボールを持たないで、本塁の上またはその前方に出るか、あるいは打者または打者のバットに触れたときには、投手にボークを課して、打者にはインターフェアによって一塁が与えられる。この際はボールデッドとなる。」(太字文字は筆者による)

というルールだ。このルールは打撃妨害についてのものであり、捕手が打者のバットや身体に触って、打者の打撃を妨げることに對するペナルティだったが、大リーグの試合で前進守備をとっていた一塁手が、三塁走者の本塁突入を阻止するために、本塁の前で投手の投球をカットしてしまうというとんでもないプレイが起こり米国では1954年から捕手の他に「**その他の野手**」という文字が付け加えられたという経緯がある。

もし、三塁走者がいた状況であれば、ファウルラインを越えた投球を一塁手などが捕球した場合は、打者への打撃妨害を取り、打者は一塁へ。投手にボークを課し、三塁走者がいなければ、打撃妨害だけをとることにすれば6.01gの応用で観衆を納得させやすい。しかし、走者が二塁であったとしてもボールがラインを越えて転がっており、二塁走者が三塁を回って本塁に向かっている状態で野手がボールを掴んだら、走者三塁と変わらないからボークでホームインさせ、他の走者はボークを宣告したときに占有していた塁を起点に進塁させて、打者には打撃妨害をとればよいという意見も出るだろう。また、ボールが転がっていてもラインを越える前に野手がボールを捕れば、打撃妨害とボークになっても1つの進塁で済ませることができないかという意見も考えられる。現在のルールでは正解がないのである。よって、現場の審判員がその時の状況を考えて結論を出すしかない。8.01cを適用し、現場の審判員の出した結論を最終的決断とすべきだろう。